現場レポート

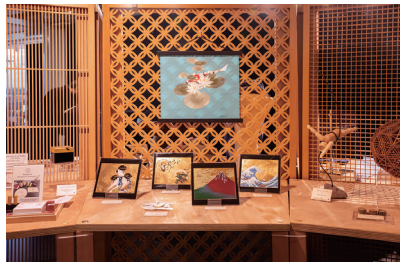
パリ事務所

# 第13回企画展「伝統と先端と」を開催しました

（一財）自治体国際化協会パリ事務所　所長補佐　佐々木　璃子（北海道ニセコ町派遣）

## 企画展「伝統と先端と」

2013年からクレアパリ事務所が主催している企画展「伝統と先端と～日本の地方の底力」（以下、「企画展」）は、2025年で13回目を迎えました。


出展品（一部）

本企画展は、日本各地の伝統工芸品を自治体から募り、フランス・パリおよび地方都市で展示販売を行うものです。自治体にご負担いただくのは輸送費や関税などの費用のみで、現地での会場費や販売員の人件費はかかりません。そのため、海外販路開拓やテストマーケティングの機会として、多くの自治体にご活用いただいています。2025年度は以下の20自治体から、衣・食・住をテーマとして、合計311点の商品をご出品いただきました。

| 出展自治体（20自治体） |
| --- |
| 青森県、山形県、福島県郡山市、東京都、神奈川県、富山県、石川県金沢市、福井県、福井県福井市、福井県鯖江市、長野県、三重県松阪市、三重県鳥羽市、京都府、堺市、兵庫県西脇市、兵庫県丹波篠山市、福岡県、熊本市、宮崎県日之影町 |

## ナント市での地方展

パリ展に先立ち、2025年11月6日から9日にかけて、フランス西部のナント市の展示会「Creativa NANTES」にブース出展という形で、地方展を開催しました。本展示会は、手芸などのハンドメイド資材を主に扱っており、来場客の約9割が女性という、これまでクレアパリ事務所が出展してきたイベントとは異なる趣を持っており、新たな挑戦となりました。

同展示会の今年度のサイドテーマが「日本」とされており、会場入口には鳥居と桜をモチーフにしたバルーンアートが飾られ、日本関係のブースも複数出展されていました。

ブースのスペース上、全311点を出展することが難しいため、客層に合わせて、アクセサリーや生活雑貨を中心に180点を厳選して販売を行いました。初めて出展するイベントだったため不安もありましたが、本ブースが会場入ってすぐという好位置に配置されたおかげもあり、多くの来場者の方に足を止めていただきました。今回のイベントは「日本」目当ての来場者ばかりではなかったため、伝統工芸品の珍しさや美しさそのものを評価いただき、ご購入いただけたように思います。また、イベントの性質上、手作りやDIYが好きな方が多かったため、作り手の視点から「これはどのように作られているのか」といった質問が多く寄せられました。

ナント展の様子

地方展は、毎年異なる地域のイベントに出展しているため、毎回新たな客層へのプロモーションの場となっています。今回のナント展も、新たな発見の多い貴重な機会となりました。

## パリ展

2025年11月18日から29日にかけて、パリ日本文化会館にてパリ展を開催しました。こちらは毎年同時期に同会場で行っているため、ありがたいことに常連のお客様もおり、数点しかない商品が初日に完売することも珍しくありません。毎年のように足を運んでくださるお客様の存在は、本企画展の継続開催が結んだ絆に他ならないと感じており、大きな励みとなっています。

エッフェル塔を望むパリ日本文化会館

会場がエッフェル塔近くということで、観光客も多く立ち寄られます。また、今年は同館2階でアニメーション監督・高畑勲氏の特別展も同時期に開催されており、相乗効果によって多くの来場者に商品をご覧いただくことができました。

来場者の多くは、商品一点一点を真剣に吟味されていました。会場内で映していた、今回出展された製品の製造工程を紹介する動画をじっくりと視聴する方もおり、そこからも、商品に込められた伝統技術や職人の技への関心の高さがうかがえました。また、開催時期がクリスマス前ということもあり、家族や友人、自分へのギフトとしてまとめて購入されるお客様も多くみられました。

パリ展の様子

## 体験ワークショップや実演披露も

パリ展では企画展の付帯イベントとして、日本の職人による技術の実演披露や、伝統工芸を実際に体験できるワークショップを実施しています。2025年度は4つの自治体から、計6つのワークショップを行いました。

| | |
|---|---|
| **東京都** | • 江戸木目込み人形　• 江戸押絵 |
| **長野県** | • 組子細工 |
| **石川県金沢市** | • 加賀友禅　• 金箔 |
| **兵庫県丹波篠山市** | • 丹波焼の金継ぎ |

質疑応答の時間には、技法の歴史、職人・工房に関するものから、他の伝統技術との違いなど専門的なものまで、幅広い質問が相次ぎ、伝統技術をより理解しようとする積極的な姿勢に、職人も驚いた様子でした。また、ワークショップ終了後には、「職人を応援したい」と関連商品を購入される方も多く、販売促進にもつながる結果となりました。

フランスでは、技術そのものだけではなく、その背景にある歴史やストーリーに惹かれる人が多いため、実際に体験し、職人の話を直接聞くことでファンになる人も少なくありません。

江戸押絵の技法を説明する職人（東京都）

## 日本のものづくりを海外に

本企画展は、地域の伝統工芸の魅力を海外に発信する場であると同時に、フランスの人々にとっても、実際に手に取って日本文化に親しんでいただく貴重な機会となっています。展示やワークショップを通して寄せられる来場者の感想や意見は、毎年丁寧に聞き取り、フィードバックとして自治体の皆様にお伝えしています。こうした声をもとに、新たな魅力の発見や、商品の改良・開発、マーケティングのヒントとしてご活用いただければ幸いです。

クレアパリ事務所では、今後もこうした機会を通じて、日本各地のものづくりの魅力を広く海外へ届ける支援を続けてまいります。その際には、ぜひ多くの自治体の皆様にご参加いただけますと幸いです。